



日本食・発酵食品の 革新的研究開発拠点

日本食の機能性開発センター

The Research Center
for Japanese Foods



広島大学 日本食・発酵食品の革新的研究開発拠点 令和元年度 セミナー

日時：令和元年12月2日(月) 16:20～17:50

会場：生物生産学部 C201 講義室

演題 1

細菌sRNAと標的mRNA間の塩基対形成を促進するHfq作用

講演者：森田 鉄兵 助教(鈴鹿医療科学大学 薬学部)

演題 2

微生物の遺伝暗号翻訳機構の多様性

講演者：相馬亜希子 講師(千葉大学 園芸学研究科)



問い合わせ先：統合生命科学研究科 食品衛生学研究室

島本 整(tadashis@hiroshima-u.ac.jp)

学術・社会連携室 環境遺伝生態学分野

丸山史人(fumito@hiroshima-u.ac.jp)

本セミナーは、5研究科共同セミナーとして扱われます。



The Research Center for Japanese Foods 日本食・発酵食品の革新的研究開発拠点 — 日本食の機能性開発センター —

令和元年度 拠点セミナー

2019年12月2日(月) 16:20~17:50 広島大学 生物生産学部 C201 講義室

細菌sRNAと標的mRNA間の塩基対形成を促進するHfq作用

森田 鉄兵 助教(鈴鹿医療科学大学 薬学部)

少分子RNA(sRNA)は、遺伝子発現を転写後段階で制御する。細菌において、sRNAは、RNAシャペロンタンパク質であるHfqと協働して、RNA塩基対を介して標的にするmRNAと結合し、mRNAからタンパク質への発現過程を制御する。今回は、³²P標識したRNAをプローブとして用いて行ってきた一連のRNA-タンパク質結合実験の結果を示し、sRNA/標的mRNA間での塩基対形成におけるHfqの役割について深く議論したい。

微生物の遺伝暗号翻訳機構の多様性

相馬亜希子 講師(千葉大学 園芸学研究科)

tRNAによるコドンの認識は遺伝暗号の正確な翻訳に必須であるが、どのようなアンチコドンレパートリーを使うかは生物種によってさまざまである。本発表では、特に微生物tRNAの転写後修飾の機能や生合成経路を紹介するとともに、コドン-アンチコドン対合の多様性とその進化について考察する。

主催： 広島大学 日本食・発酵食品の革新的研究開発拠点